

生き物しらべをはじめました！

森と水の源流館では、今年から白屋地区の生き物の調査をはじめました。古くは「源義経の伝説」に登場する白屋は、歴史ある集落でした。白屋の歴史の中で、美しい景観を作ってきたのはそこにいらしてきた人々と生き物たちです。

大滝ダム建設に伴う地すべりのため全戸移転を余儀なくされた白屋集落では、現在、多くのみなさまのご協力により「未来への風景づくり」が進められています。これまで暮らしてきた住民と一緒に美しい景観を作ってきたもう一方の主演、白屋の生き物たちともなかよく「未来への風景づくり」ができればと思います。そのために、どんな生き物がくらしているのかを知らなければなりません。私たちは、白屋地区の生き物調査を実施し、結果をみなさまにお届けしたいと思います。そしていつか、みなさまのふるさととなった白屋の風景を、いっしょに楽しめるといいなと願っています。

今回は 2015 年 5 月 10 日に行われた第 1 回目の調査の速報をお届けします。

< ぐ ら し の 記 憶 >

石垣景観



鎮守の森



白屋の斜面で生きるために築かれた石垣、大切にしてきた八幡神社の立派な鎮守の森（環境省特定植物群落「白屋八幡神社のタブ林」）は、この地区の大きな特徴です。

庭園木、栽培木もわずかに残っています。栽培品種のクワの木は、かつて林業王、土倉庄三郎翁が村民に配ったクワの木の子孫かもしれません。トウヒは大台ヶ原や大峰山が世界の南限にあたる樹木。きっと、先人がこの地に移植し、大切に育てられたのでしょう。高山に登らずとも見られる場所としても貴重です。

クワの木



トウヒ



< 虫 の コ ー ナ ー >



アサギマダラ

渡り鳥のように旅をするチョウとして有名です。



ヤマトフキバッタ

フキバッタのなかまは羽が短く、各地で固有種がいます。

今回の調査では約 50 種の昆虫が確認されました。トンボの仲間があまりいませんでしたが、大滝ダム湖にはヤゴがたくさんいるはずなので、水辺環境をつくとやってくるかもしれません。

また、クリやかんきつ類、バラ科の植物を植えるとチョウがたくさん増えて、子どもたちと一緒に昆虫採集が楽しめるようになるかもしれません。

< 植 物 コ ー ナ ー >



イヌノフグリ

絶滅危惧種のイヌノフグリを発見！

イヌノフグリは環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類の植物です。もともとは、道端などどこにでも生育していた小さな雑草でしたが、外来のオオイヌノフグリとの競合でほぼ駆逐されてめったにその姿を見ることができなくなりました。奈良県では、まだ少し見ることができるので、希少種（奈良県レッドデータブック）としてあつかわれています。白屋では石垣のすき間に3株だけ生育しているのが見つかりました。



タブノキ

タブノキの花が咲いていました

タブノキは海岸付近に多く自生する樹木です。吉野川紀の川沿いには、源流部の川上村に自生しています。これは、氷河期の後のあたたかい時期に川をさかのぼってきたものの生き残りです。中流部では、暴れ川だったこの川の氾濫や人間生活によって絶滅し、見ることはできません。

白屋八幡神社のタブノキ林は、水没した丹生川上神社上社、天武天皇神社のタブノキ林がなくなった今、奈良県唯一のタブノキ林とされています。集落内にも自生しています。



オウミゴケ

オウミゴケを発見

オウミゴケは石垣や樹幹に着生するコケです。奈良県では吉野山や法隆寺など4か所でのみ見つかっている希少種です。川上村でも水没前の丹生川上神社上社に生育していましたが、水没により絶滅したと考えられていました。今回、白屋地区の石垣に豊富に生育しているのが確認されました。しかし、石垣に雑草などがしげってしまうとイヌノフグリなどとともに容易に絶滅してしまうような状況です。

これまでの集落の掃除などの営みが守ってきた種です。

< し の び 寄 る 外 来 種 >



アメリカオニアザミ



ヤワゲフウロ

アメリカオニアザミやヤワゲフウロ、ナルトサワグクなど、生育状況から最近になって定着したと考えられるものがありました。草刈りなどの対策が望まれます。外来種についてもモニタリングしていきます。